

在日中国人留学生の社会関係資本と キャリア意識に関する研究

YANG Yang

本研究では、在日中国人留学生の社会関係資本とキャリア意識に関する問題を検討することにある。インタビュー対象者のライフストーリーを参考し、中国人留学生のキャリア意識が彼らの社会関係資本をどのように形作っていくのかを明らかにする。

学歴社会だと呼ばれる中国では、自らの将来のためにもっと良いキャリア形成を達成し、留学を通じて自分の知識を増やし、自分の視野を広げる中国人学生が増えている。そんな中、日本の文化、アニメが好きで日本に留学に来ている中国人が多い。また、日本政府は留学政策を積極的に推進し、外国人を「高度人材」として育成することを目指し、留学生が卒業後日本で就職と定着することができるように積極的に展開している。しかし、様々な要因で日本で就職および定着率が高いと言えない。従来、多くの先行研究では留学生における在日就職問題、企業と留学生の間のマッチング、留学生支援などの問題が指摘され、実際に外国人留学生は未来に関するどのようなキャリア意識を持っているのかそしてキャリアや社会関係資本に関してどのような形を構築しているのかについては、まだ実態を把握しているとはいえない。

次に、そこで、本研究では社会関係資本とキャリア形成に関する先行研究を整理し、検討した。先行研究のレビューを踏まえたうえで、日本国内に在住している中国人留学生を研究対象にインタビューを実行した。今回の調査では、インタビュー対象者は8名であり、それぞれ男性が4名、女性が4名である。留学前、留学中、留学後という3つの段階に分けて、それぞれに質問を設けている。留学前に関する日本への留学動機(自分で決めるか、家族による意見で決めるか、他人へのネットワークの影響)、日本語のレベル、進学についての準備、留学中に関する生活の適応、再編、就職志向及び理由、ネットワークの変化、留学後に関する仕事の満足度、仕事上感じる問題、ネットワークの変化、転職経験などについて、事例分析を行った。

調査の結果によって、以下のことが分かった。キャリア志向によって、日本へ定着タイプ、探索タイプ、帰国タイプという3つのタイプが分かれる。まず、日本へ定着タイプについて、彼たちは自分の主観意見で進路を決めている。このタイプは日本人とのネットワークが主に職場の同僚と子供の教育に関わる人が多い。中国人とのネットワークが主に在日中の同じ興味を持ち、同じく日本で定着希望をしている友人である。日本へ定着タイプはある程度日本人と同じように仕事と生活のことを考えている。次に、探索タイプである。彼たちも自分の主観意見で進路を決めている。しかし、卒業後に、帰国か日本に定着かまだ決めかねているが、自分がしばらく帰国したくないため、一応日本で働きながら自分の進路を考えるようになった。このタイプの人は自分と同じキャリア志向の方と付き合い、新たなネットワークを作っていく。最後に、帰国タイプである。彼らは中国に在住の家族あるいは友人と言った第三者の客観的なアドバイスから影響を受けている傾向がみられた。彼たちは留学前あるいは留学中のうちに進路を決定した。つまり、帰国を強く志向するタイプのキャリア志向は自らの思いよりも、特に中国在住の社会関係資本の影響を強く受けているということであり、日本在住中も積極的に日本人とのネットワークをつくるという傾向は弱いといえよう。

以上の事例調査から得られた知見をもとに、3つのキャリア意識と社会関係資本のタイプを明らかにした。帰国タイプと日本で模索するタイプの共通の特徴は、中国人の社会関係資本が比較的に多い。また、自分が将来従事したい仕事について事前に調べ情報を手に入れている。自分と同じ目的や目標を持っている知人、友人を職場で得る傾向があり、このような方法によって、自分のキャリアの計画に関する情報を得ている。一方、日本に定着するタイプの特徴は、中国人でも日本人でも、自分の考えと一致したり、自分の将来のキャリア計画に役立つ人たちと積極的に触れ合い、また、これらのネットワーク(人脈)を有効に活用することが自分のキャリアプランに役立つということである。

本研究は以上の結論を得たが、分析方法などにおいていくつかの課題が残される。今後の研究課題は、研究を通じてより多くの知見を得ることができると考え、中国人留学生だけでなく、できるだけ多くの国籍の留学生に対して調査すべきである。また、同じ留学生でも、学歴によってキャリア志向あるいは社会関係資本のパターンは大きく異なることが予想される。本論で用いたデータはスノーボールサンプリングによるものであり、知見の一般化は難しい。今後はインタビューによる質的調査のみならず、アンケートを用いた量的調査、分析が大きな課題となるだろう。